

# 日本に定着した愛玩鳥由来の外来種鳥類 ワカケホンセイインコの食性調査

東京都市大学環境学部環境創生学科 保全生態学研究室（北村研究室）

北村研究室では、生物多様性を生む機構を明らかにする基礎研究と、生物を保全する実践研究の両面からアプローチを行い、野生生物と人間の軋轢を解消し、持続可能な社会の実現を目指しています。

## 【活動背景】

ワカケホンセイインコは、もともと愛玩用に日本に輸入されましたが、一部が野外に移出し、現在は外来種として主に関東圏に定着しています。これらの鳥は、自然の生態系に何らかの影響を及ぼす可能性がある一方、もともと人間の都合で本来の生息地でない国に持ち込まれてしまったものです。これまで、同じ場所に住む在来鳥類との競合の可能性が指摘されてきたものの、しっかりとした調査がなされていませんでした。そこで、都市の公園など同じ場所で目撃され、同じように樹木のうろに巣を作って雛を育てる在来種のムクドリとの関係を調べることになりました。

## 【活動目的】

この活動を通じて、ワカケホンセイインコとムクドリが競合するのかを明らかにすることが目的です。そのために、どのような給餌がひな鳥になされているかを調査しました。

## 【助成金の用途・活動結果】

助成金は糞便に含まれる餌生物DNAの網羅的解析に用いられました。1繁殖期の事例のため、競合がないと結論付けすることはできませんが、2種の食性が異なること、同じ巣穴を時期をずらして使用してどちらの種も同数の雛を巣立ちさせたことなど、外来種ワカケホンセイインコの繁殖が在来種ムクドリの繁殖機会を奪うという単純な構図ではないことがわかってきました。



ワカケホンセイインコ（左）とムクドリ（右）（写真提供：日本鳥類保護連盟）

## 【団体からのメッセージ】

当研究室では外来種問題以外にも様々な視点から生物多様性の保全に寄与する研究をしております。近年は生態の分析手法も多岐に渡るようになり、単純な観察からでは得られない事実が明らかとなるようになってきました。今回、助成をいただけたお陰で新しい手法を用いることができ、ワカケホンセイインコと在来種との関係が単純なものではないことがわかってきました。このような科学的な知見を広く発信していくことで、多くの方たちに生物多様性について深く考えるきっかけになっていただければ幸いです。